

第6章 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて

第1節 水のまち東京における舟運活性化や外国人及び障がい者の旅客船利用者の利便性向上

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催期間中には、観客及び大会スタッフ等の円滑な移動手段の1つとして、水上交通の確保が必要となるとともに、増加が予想される訪日外国人観光客に対し、外国語での案内を充実させること等を通じて利便性の向上を図っていくことが重要となっている。さらに訪日するパラリンピアンを始めとした障がい者のために、バリアフリーの充実も図っていく必要がある。

大会に向けて増加が見込まれる訪日外国人や日本人観光客への対応、東京の水辺空間及び舟運のPRや集客などの諸課題に関する関係者の意見交換、相互連携の場として、2014年2月から「水のまち東京における舟運活性化に関する関係者連絡会」を開催している。2014年9月には、この取組の1つとして、ツーリズムEXPOジャパンに会場された外国の旅行事業者を対象に屋形船のPRを実施した。

今後も、連絡会を活用して、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて増加が見込まれる観光需要への対応、東京の水辺空間及び舟運のPR、環境整備等の諸課題について検討していくこととしており、具体的な取組として、2015年7月の「海の日」に舟運のPRを目的としたイベントの実施や外国人旅行者にとって分かりやすい東京の水上交通（屋形船、水上バス等）の共通の航路マップの作成、旅行会社等と連携して外国人等の視点を取り入れ、屋形船や水上バスの魅力を手軽に楽しめる企画商品の開発、インバウンド商談会の場を活用した船旅の魅力の発信等を進めていく予定である。

障がい者へのバリアフリーの対応では、現在、国土交通省において2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な実施やその後の超高齢化社会も見据えたバリアフリー施策をより充実したものとしていくために、副大臣を座長としてバリアフリーWGを設置して、具体的な検討を行っているところである。旅客船関係でも旅客船ターミナル及び旅客船のバリアフリー化に向けて、バリアフリーに関する課題の抽出等を行うための事業者間でのPTの設置や、船舶の建造計画の把握とその前倒しの検討を促すこと等の取組を進めることとしている。

また、駅等と旅客船ターミナルとのアクセス向上のため、陸上交通機関等の関係者と連携し、ピクトグラムを含む外国語案内表示の充実を図るとともに、旅客船ターミナルの窓口等において、陸上交通との乗継情報や周辺の観光情報を外国語で提供する案内の充実も進めることとしており、今後も引き続き、外国人及び障がい者が旅客船を利用する際の利便性の向上を意識した様々な取組を進めていくこととしている。



インバウンド商談会の例 (ツーリズムEXPOジャパン)

屋形船を楽しむ外国人



船着場の整備 (羽田・日本空港ビルデング株)

<外国人にも分かりやすい案内表示の促進>

(案内表示の例) ※ サイン、表示が統一されていない



○ 棧橋 (Pier、Sambashi)

(参考) 観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン(2014年3月)での表記例

<船舶関係用語> <ピクトグラム>

- 港 (Port)
- 乗船口 (Boarding Gate)



第 2 節 燃料電池船

将来の二次エネルギーでは、電気、熱に加え、水素が中心的役割を担うことが期待されている。エネルギー基本計画においては、水素社会を実現していくためには、水素の製造から貯蔵・輸送、そして利用にいたるサプライチェーン全体を俯瞰した戦略の下、様々な技術的可能性の中から、安全性、利便性、経済性及び環境性能の高い技術が選り抜かれていくような厚みのある多様な技術開発や低コスト化を推進することが重要であるとされている。

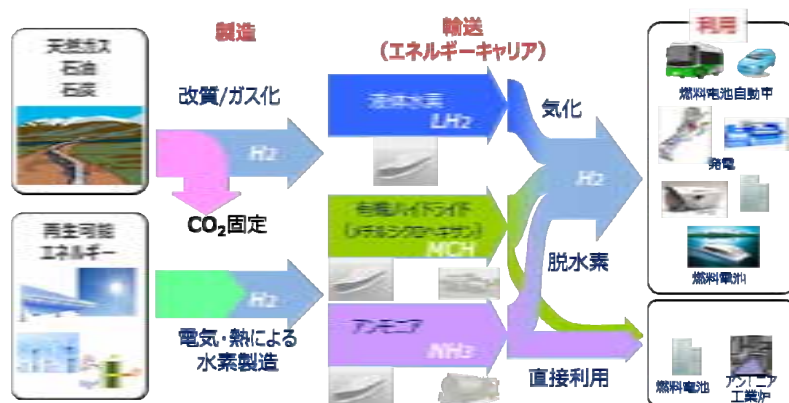
エネルギー基本計画（2014年4月閣議決定）を受けて策定された「水素・燃料電池戦略ロードマップ」（2014年6月）において、家庭用・産業用燃料電池、燃料電池自動車などの将来ビジョンが示されている。

国土交通省では、水素社会の実現に向けて、安価で安定的な水素を調達するため、船舶による液化水素の大量輸送に向けた取組を行うとともに、海事分野における水素の利用促進を図るため、高い環境特性を有する水素燃料電池船の実用化に向けた検討を開始している。

また、民間企業においても、燃料電池船の建造及び運航について関心を示しており、燃料電池船の実用化に向けて、安全ガイドラインを策定するなど民間企業が参画できる基盤を整備していくこととしている。

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の水素技術実証検討会において、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、将来の水素社会実現につながる水素関連技術のデモンストレーションなどの検討が行われており、燃料電池船についても水素の利用技術の一つとして検討が行われている。

図表 I - 6 - 1 CO₂ フリー水素バリューチェーンの構築



図表 I - 6 - 2 燃料電池船の優位性



- 既存の内燃機関に比べ、高い環境特性
- モーター駆動による低振動・低騒音といった快適性